

あの時代へ  
**GO!**

『なんとなく、クリスタル』から33年の今年、続編が発売される

# 33年前、私は何をしてただろう

あれから33年。登場した女性たちも50代となり、それぞれの道を生きている。これからもいろんな壁はあるだろう。しかしそれは黄昏ではなく、曙——始まりなのかもしれないと田中康夫氏は言う。



作家・田中康夫氏。  
『なんとなく、クリスタル』の舞台のひとつでもあった青山で。

## 1979年、ソニーが初の携帯型ステレオ○○○○プレイヤー『ウォークマン』を発売

ヘッドホン付属で持ち運びでき、いつでもどこでも音楽が聞ける画期的なツールとして、世界的に大ヒット。『ウォークマン』は、ポータブルオーディオの代名詞に。



ㄨㄥㄨㄥㄨㄥㄨㄥㄨㄥ

「ヘッドホン旅」が流行語に。

## 冬は、男女大勢でバスを仕立て、高級ウェアを着て雪山へ遊びに行く、○○○○が大人気

スキーがまるでできない人も多数参加。ブランド物のスキーウェアでおしゃれに着飾り、最大の目的はアフター・スキーと称する合コンパーティ。

ㄨㄥㄨㄥㄨㄥㄨㄥㄨㄥ



若者であふれるバス乗り場。

## 1970年代中ごろから神戸で流行したファッション『ニュートラ』に対抗し、横浜発のお嬢様スタイルとして○○○○がブームに

ポロシャツやトレーナー、タータンチェックの巻きスカート、ストッキング素材のハイソックスなどが必須アイテム。

メーカーのロゴ入りトレーナーが大人気。

ㄨㄥㄨㄥㄨㄥㄨㄥㄨㄥ

## タイトーが開発したテレビゲーム『○○○○インベーダー』(通称：インベ)が老若男女問わず大ヒット!

これをきっかけにゲームセンターが乱立し、テーブルがゲーム機になったインベーダー喫茶も誕生。順番待ちの行列ができるほど。



ㄨㄥㄨㄥㄨㄥㄨㄥㄨㄥ

多くの人々が喫茶店でゲームに興じた。

なんとなく、クリスタル



田中康夫

## 『なんとなく、クリスタル』とは?

1980年に文藝賞を受賞、翌年1月に出版され大ベストセラーに。女子大生でモデルの由利を主人公に、彼女の好きな服やブランド、音楽などを通して消費社会をしなやかに享受する若者像を描いた。頻出するカタカナには詳細な註が付けられ、風俗力タログ小説との評もあったが、現在は80年代のエポック文学とされる。

# あの頃は待ち合わせもひと苦労だった。 約束したハチ公前で気をもんだ

1970年代後半から1980年代前半。すべてが前向きで輝きに満ちていた、その豊かさがこの先もずっと続いてさらに豊かになるのだと人々は信じて疑わなかった。

73年にファッションビルの  
① **渋谷** が  
オープン。これ以降、流行の発信地が東京・新宿・銀座から、渋谷へと移り、'70〜'80年代の若者文化の中心となる。

超高層ビル「サンシャイン60」が'78年に完成。'74年に建てられた新宿③ビルを抜いて日本一ののっぽビルに。

日本を代表する④ハブ空港「新東京国際空港」が'78年に開港。東京国際空港（通称「羽田空港」と区別するため④国際空港と呼ばれ、'04年に正式に改称。

女性アイドルデュオ・ピンク・レディーが大人気となり、社会現象に。「UFO」「サウスポー」②は'78年のレコード売り上げトップ3を占め、「UFO」で日本レコード大賞を受賞。

武田鉄矢主演の学園ドラマ「3年B組金八先生」が'79年に放送開始。第1シリーズの最終回は視聴率39.9%を記録。いじめや非行、10代の⑥などさまざまな問題を取り上げ、社会現象に。



「年下の男の子」がヒットした、ラン、スー、ミキの3人からなるアイドルグループ「キャンディーズ」が、'78年人気絶頂のなか解散。解散宣言の「⑤の女の子に戻りたい」は流行語に。



原宿のホコ天（歩行者天国）に、独特の派手な衣装を着て、ラジカセからディスコサウンドを流し、ステップダンスを踊る⑦族が登場。'80年には最盛期を迎え、路上パフォーマンスが一大ブームに。



原宿の路上は、若者の聖地に。

'78年に公開されたジョン・トラボルタ主演の映画『⑧・ナイト・フィーバー』が世界的に大ヒットし、日本もディスコブームに。ディスコで大騒ぎする意味の「フィーバーする」という言葉も生まれた。



'79年の女性セブン。このころの表紙は毎号外国人モデルだった。日本人が皆、西洋風に憧れていた時代。



大人気だったハワイ出身のアグネス・ラムが表紙モデルに。この頃、海外旅行に行く人が激増。



# ルイ・ヴィトンを買ってうれしい人も 岩波新書をありがたがる人も同じ

## なんくり キーワード辞典

なんくりの特徴ともいえるのが、ぎっしりと詰め込まれた世相をあらわすキーワード。これらを読み解くと、当時の流行が鮮明によみがえってくる。

**あ アンナ・ミリアス** アメリカ西海岸とハワイが発祥の、デザートバイがメインメニエールのレストランチェーン。日本ではあんまん

で有名な井村屋がライセンス契約し、ビチビチで胸元を強調した超ミニのウエイトレス制服で話題に。

**エッセ** イタリアのスポーツ・パレレメーカー。創設者のセルバデイオレオナルドのイニシャル「L.S」をデザインしたロゴが有名。テニスブームとともに『フィラ』『マジア』と並び、テニスウェアブランドの御三家に。

**陸サーファー** サーファーフアッションが大流行し、実際にサーフィンのできないのに、ファッションだけはサーファーっぽいスタイルを取り入れた似非サーファーのこと。



素肌を露出させたサーファールック。

**か キタムラ** 横浜・元町の老舗バック店。フクゾーの服、ミハマの靴とともに、キタムラのパケツ型バッグはハマトラ三種の神鏡。

**クレーシユ** フランスのファッションデザイナー、アンドレ・クレージュが立ち上げたブランド。日本ではハマトラの流行にのって、バステルカラーのセーターやお弁当箱型バッグが人気に。

**さ シップス** 原宿のパークレー銀座のセレクト・ショップ。全国各地に店舗を開き、シップスが発信するトラッドファッションは全国規模で広がった。

**西洋コンプレックス** インターナショナルスクールに通うのがかっこいいとされ、雑誌の表紙や化粧品メーカーのCMはのきなみ外国人。日本国民の多くが西洋人になりたいと、西洋文化がもてはやされた。

**た デイオリッシモ** フランスのファッションブランド『デイオール』の香水。オールド、ジャスミンなどを調合したフローラル系の香りが男性ウケ抜群とされ、汚れたスキメスや清楚なお嬢様に愛された。

**ディスコ** 現在のクラブの前身。ミラーボールがキラキラ光り、大音量で曲をかけ、客にダンスをさせる店。1978年にジョン・トラボルタ主演の映画『サタデー・ナイト・フィーバー』が日本で大ヒットし、新宿、渋谷、上野

池袋などの繁華街で多数のディスコが開業。医大生が主催するなど、学生がディスコパーティーをするのがブームに。

**は パープリン** 漫画家・小林よしのり氏著の『東大一直線』のなかで使った造語。「頭がパーなので、まるで脳がプリン」が由来で、頭がからっぽで浅はかな子をさす。

**ファラー・フォーセット** 大ヒットしたアメリカのテレビドラマ『チャールズ・エンジェル』の主演女優のひとり。日本のサーファーフアッションの火つけ役にもなったカリスマ的存在。若い女性も「ファラーになりたい」と憧れた。ポリウム感のあるライオンヘア、青いアイシャドウ、パンタロンなどがブームに。



日本人には難易度の高い髪型だった。

**フクゾー** ハマトラファッションを代表する、タツノオトシゴのロゴマークで有名な洋品店。トレーナーやポロシャツが大人気で、元町の本

は行列をなし、つねに売り切れ状態。高飛車な店員の対応も話題に。

**ブロー** ヘアドライヤーの熱風を当て、髪形を整えること。日本では髪は自然乾燥するものという概念だったが、ドライヤーの一般家庭への普及とともに若者にとってブローは当たり前のもの。



プロ-命

**ホバイ少年** 平凡出版(現マガジンハウス)発行の男性ファッション誌『ホバイ』に影響された若者をさす。

**ま ミハマ** ハマトラファッションの御三家のひとつの靴店。ペチャンコのフラットシューズは当時の女子大生の必須アイテム。

**メンソールたばこ** 女性の喫煙はおしゃれのひとつ。とくに、『セーラム』や『バーニア・スリム』などのメンソールたばこが人気で、女性的なイメージからか、男性が吸うとインポテンツになるといふ風説があった。

田中康夫さん インタビュー **2** 時代に刻まれる世の中の文化に価値の優劣はない

33年前、岩波新書を読むのをありがたがるのと、ルイ・ヴィトンのバッグを買ってうれしい気持ちとは、同じ人間が抱く等価な感情だと言いつつ、24才の田中さんは「良識派」の神経を逆なでした。「その2つは同じ次元で語れない、と彼らは思い込んでいた。でも、大好きな食べ物を口にしておいしいと思う瞬間は、そうした教養人と呼ばれる人々にもあるのです。時代に刻まれる世の中の文化は、功成り名遂げた芸術院の会員だけが生み出すのではない。原宿からも浅草からも、そして山あいの集落からも生まれる可能性がある。その当たり前の話を認めようとせず、目をそらしてしまうのは、しなやかな日本の成熟を妨げることになってしまいますよ、と33年前も今も、僕は考え、語り、動いているのだと思います」



33年前の田中さん

あの時代

# 私はこうだった!

日本中が華やいていた1970年代後半から1980年代前半。インターネットがなかったこの時代、若者は争って人気雑誌の流行を取り入れようとした。

## ぶりっ子より 刈り上げが イケてた

「ハマトラみたいなファッションって、聖子ちゃんのイメージもあってか男ウケをねらってるイメージ。地方では、マヌカン風にDCブランドを着てる子のほうがセンスが上と思われてました。女の子も黒づくめで髪は刈り上げがカッコよかったんですよ」(55才・販売/高知県出身)



## ケータイのない時代、 電話は家族の“検閲”が

「家族が集まるリビングに固定電話が1台の時代。彼氏と電話でしゃべるのなんて、ひと苦勞。親が目の前で聞き耳立ててるし、ちゃんとなんでもらえただけでもマシ。ケータイもボケルもないから、友達との待ち合わせだって30分ぐらい待つのが当たり前。お金持ちの子は、電話で呼び出ししてくれる喫茶店で待ち合わせるのがステータスでした」(52才・パート/愛知県出身)



## お金は使っても 使っても 湧いてくる!?

「残業代が基本給なみについて、給料は永遠に上がり続けるものと信じてた。まさにバブルの始まり。勤めてた小さな会社でさえ、社員旅行は海外、忘年会は高級ホテル、飲み食いはほとんど男性もち。憑りつかれたように日本中がお祭り騒ぎだったけど、あのときにちゃんと貯金してればとつくづく後悔…」(60才・主婦/千葉県出身)

## クローンみたいに みんな同じ格好が安心!

「雑誌をマネして、服からバッグ、靴、メイクに至るまで、みんなが同じ格好でまるでクローン。それが常識だったんです。今じゃユニクロ愛用で、街で同じ服を着ている人を見つけると超気マズいんですけど」(50才・サービス業/東京都出身)



ごちそうだね♡



## ファミレスに わくわくドキドキ

「1970年は外食元年。'80年ごろには地方にもファストフード店やファミレスが続々でき、はじめて食べたハンバーガーの味や、ナポリタンじゃないスパゲティがあることに大感動! 小さいころは、外食なんて年に1、2度。でも、あの時代は月1回、家族でファミレスに行くのが何よりの楽しみでした」(47才・公務員/長野県出身)



## 胸についた なぞのマークで 大満足

「都会で流行してた、ブランドのロゴマーク入りの服をマネして、田舎でもやたらにマークの入ったトレーナーやシャツが売られてました。いわゆるなんちゃって商品だけど、似ているだけでオシャレ。大喜びで着てたな〜」(49才・営業/広島県出身)

ダボっとしたDCブランドのジャケットがお約束。

# 智性、勘性、温性。 量から質の時代へ

恋愛、震災ボランティア、知事、国会議員、さまざまな話題を、提供してきた田中康夫氏が、フルタイムの作家として戻って来た。「なんとなく、クリスタル」で当時21才だったヒロイン由利。2014年、50代になった彼女とともに。

「久しぶりに小説が書けたのは、失職して時間ができたというのも大きいですね」

たとえば長野県知事時代は、睡眠時間が毎日3、4時間という多忙さ。手のアトピーが、日に悪化した。

「ストレスが原因かな。ネクタイを締めるのにもひと苦労でした。ザラザラした手で握手するわけにもいかず、支援者が差し入れてくれた長野県産のシルクで編んだ手袋が欠かせませんでした。知事を退任したら、不思議とおさまりましたけど」

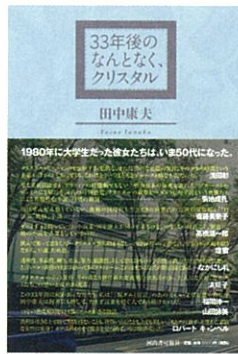
そんな時期も支えてくれた10才年下のJAL客室乗務員だった恵さんと結婚したのは、兵庫県尼崎市を地盤とする衆議院議員だった4年前のことだ。

## 妻と愛犬ロッタに癒される日々

恵さんは田中さんが16年も連載した異色エッセイ「東京ペログリ日記」に最多登場のW嬢のモデルといわれる。そう考えると、ずいぶん長い春だった。

「家内とは、ケミストリー（相性）が合うんでしょうね」

先日もこんなことがあった。今回の『33年後のなんとなく、クリスタル』の著者プロフィールはナント、タナカ家の家族の一員である4才のトイプードルのロッタ嬢が担当（という仕掛け）。「ロッタの書いた原稿」をテーブルに置いていたら、妻が買い物へ出かける前にチラッと見て、パパとママのウザイくらいの



## 田中康夫 Yasuo Tanaka

1956年東京生まれ、作家。1980年一橋大学在学中に執筆した小説『なんとなく、クリスタル』が第17回文藝賞を受賞。2000年より長野県知事に(2期)。2007年から2012年まで参議院議員、衆議院議員。11月末に17年ぶりの小説『33年後のなんとなく、クリスタル』(河出書房新社)を出版。http://www.nippon-dream.com/



3才のとき、母親の友人に「おとなしい坊ちゃんですね」と言われて「猫をかぶってるんです」と答えたような少年だった。「どうやら、その前日の夕食の会話で大学の研究者だった父と教師だった母が使った言葉らしく、意味は判らないけど、こんなニュアンスだと“耳学問”で思ったんですね。」

愛を一身に受けて成長中。なあって鉛筆で書き加えたんですよ。確かにその一文があるのとないのとでは違う。思わず、印税の10円分くらいは妻に振り込まなきゃと思いました。なあんて、のろけ話に聞こえちゃいそうですが、僕にはない才能ですね」

執筆に行き詰まって「オレ、才能ないな」と夫がぼやいてると、「才能の枯渇は才能のある人が言う。by ニーチェ うそ」とメモがそつと回ってくる。「口



続編に登場するロッタちゃん。

ッタのご主人様は家内、僕は家内の執事」という家庭内序列が揺るがないのも、むべなるかな。夫婦ともに食べ歩きが好きな外食派だが、家で食事するとき



「なんとなく、クリスタル」発売後、ブランド品を身に着ける「クリスタル族」と呼ばれる女性があふれた。

は、タイ風はるさめサラダ（ヤムウンセン）や、季節の食材を使った土鍋ごはんなど、恵さんの手料理。お気に入りのイタリアの白ワインを2人で2本も空けて11時過ぎにはベッド、朝の5時にはロツタに起こされるとい生活だ。

田中さんの祖母は米国留学をした元祖クリスタル族のハイカラさん。その彼が前々回の総選挙で尼崎を選んだのは、自分に正直に生きる尼崎のオバチャンたちに、直感的に理解してもらえるのではと思ったから。

「頭でっかちな知性でなく、生活の中で得た『智性』。やわな感性ではなく、鋭い勘所の『勘性』。そして正義感と人情味を感じさせる高い体温の『温性』。そんな『地アタマ』を持った尼崎の女性

たちと僕は通ずる部分があったと今でも思います。

実は『なんくり』の女性達もそう。表層的にはアツパミドールと呼ばれる暮らし向きかもしれないけれど、すべてが数字で動く無慈悲な『市場経済』よりも、独居のおばあちゃんに『今日の切り身、ちよっと小さいから20円安くしとくよ』と声がかかる『市場』の人間味に共感するタイプ。そうして誰もが歯車に組み込まれて息苦しい社会の中で、『微力だけど無力じゃない』と信じて、自分の身の丈でやれることをやっていこうとする意欲。ブランドものを着ているとか、ブランドものを持っているとか関係ない。僕はそういう人達に惹かれるんです」

## なんくり最終ページの出生率データの意味は

33年前、『なんくり』の註の最後に、日本の合計特殊出生率と高齢化率のデータが2ページにわたって記されていたことに注目した人は少なかった。

「出生率が低下し、高齢化が進行するデータを見て、大学生の僕は思ったんです。日本は、右肩上がりという言葉で捉えられる社会ではなくなるかもしれない、と」

そして今、当時の予測よりも急速に少子化や高齢化が進んでいる。真の豊かさとはなんなのか、考えざるを得ない時代だ。

「なのに今回の政府の骨太方針は、50年後も人口1億人維持を掲げ、移民を受け入れる議論まで始めている。でもイタリアやフランスの方が、ずっと豊かな人生でしょ。両国と同じ6千万人前後で持続可能な日本を目指す発想の転換が必要だと思いませんか。そもそも福祉、医療介護、教育といった分野は、人が人のお世話をして初めて成り立つ新しい雇用の場なのですから。時代は黄昏（たそがれ）に見えるけれど、この光の加減は意外にも夜明け前かもしれない。『33年後のなんとなく、クリスタル』は、そんな暗（あけぼの）の光を分かち合う物語なのです」

## 山田美保子さんが語る 33年後の『なんくり』

33年ぶりに会えた主人公の成長に元気をもらいました

95年の阪神・淡路大震災の後、田中さんが50ccバイクで被災地を駆け回り、外資系メーカーから提供を受けた化粧水や口紅を配っていたのが印象的でした。支援物資というところまで地味なものが多くけれど、気持ちが上がるようなモノを選ぶセンスがいいなあと思いました。

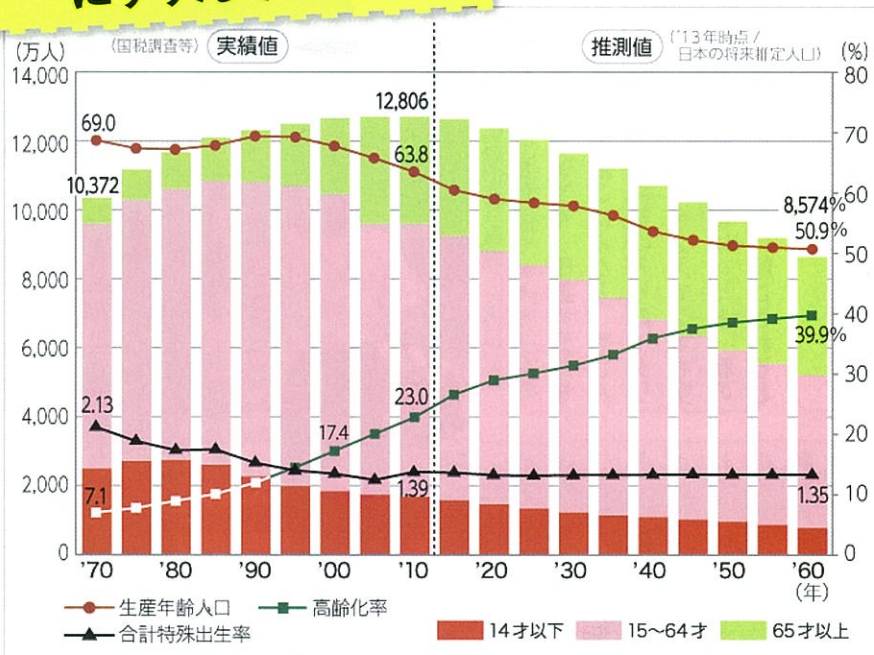
今回の『33年後のなんとなく、クリスタル』は、そういう田中さんの美意識が正しい形で出ている小説で、読ませてもらってよかったです。う気持ちになりました。

田中さんの80年代の女性誌連載『サステイ』は、満たされていないのに満たされていない女性たちの感覚を描いていたけれど、『33年後』は違う。

年齢を重ねて、のどをうるおすすべを身につけてきたのが私たち。自分なりに感じとって行動することができるようになった年代の気持ちに寄り添ったストーリーでしたね。

# 少子高齢化は想像以上にすすんでいる！

日本人の人口推移と将来推計人口



33年前の“なんくり”も、今回の続編も、巻末には厚労省の人口推移のデータが掲載されている。33年前、2000年に予想される老年人口比率(65才以上)は14.3%だったのに対し、実際は17.4%。超高齢社会が予想以上に深刻化している。グラフ(左)で示されているように、日本の少子高齢化は今後ますます加速し、2060年には総人口が9000万人を割り込み、高齢化率は40%近くにもなると予測されている。田中氏はこれからの時代を、どう生きるかという疑問を投げかけている。

※出典：総務省「国勢調査」および「人口推計」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成24年1月推計)：出生中位・死亡中位推計」(各年10月1日現在人口)厚生労働省「人口動態統計」

# 33年前、巻末に載った出生率予測のデータ。当時そこに注目する日本人は少なかつた。

## 1976~2014年までのおもな出来事

## 激動の時代を乗り越えて... これからの日本、どう生きる!?



民間から誕生した美しいイギリス王妃に世界中が沸いた。

- 1976 ● ロッキード事件で田中角栄逮捕
- 1979 ● 第二次オイルショック
- 1981 ● イギリスのチャールズ皇太子とダイアナ・スペンサーが結婚
- 「なんとなく、クリスタル」発行
- 1986 ● 狂乱の地価高騰。都心では地価上昇が7割に達し、マンションブームに昇が7割に達し、マンションブームに
- 1987 ● 金余り日本、ゴッホ、モネなどの絵画を高額落札。1~4月までで251億円にも
- 円が急騰。1ドル120円台に
- 世界の人口が50億人突破
- 1989 ● 昭和天皇崩御。昭和から平成へ
- 消費税3%スタート
- 1984年には1・84だった合計特殊出生率が、過去最低の1・57にまで減少。少子化が深刻に
- 日経平均株価が史上最高の3万8915円を記録
- 1991 ● 湾岸戦争勃発
- バブル崩壊
- 松本サリン事件発生
- 一世を風靡したディスコ「ジュリアナ東京」閉店
- 1994 ● 一世を風靡したディスコ「ジュリアナ東京」閉店
- 1995 ● 阪神・淡路大震災
- 1997 ● 地下鉄サリン事件発生
- 1997 ● 消費税5%に引き上げ
- 2000 ● 大規模小売店舗法が改正され、中小都市の商店が軒並み閉店。シャッター通りがますます増加
- 2001 ● 9月11日、アメリカで同時多発テロ事件発生
- 2003 ● 日経平均株価がバブル崩壊後、当時の最安値を記録。景気の底に
- 2004 ● 政治家の年金未納問題とともに、年金制度そのものの問題が表面化
- 2008 ● アメリカの投資銀行「リーマン・ブラザーズ」が破綻。世界的な金融危機の引き金となり、リーマン・ショックと呼ばれる
- 2009 ● 日経平均株価がバブル崩壊後の最安値を記録
- 2010 ● GDPを中国に抜かれ、世界3位に
- 2011 ● 3月11日、東日本大震災発生。この地震と津波により、福島第一原子力発電所事故も発生
- 2014 ● 消費税が8%に引き上げ



N.Y.のランドマーク、世界貿易センタービルが崩落。

33年前とは大きく変わってしまった日本。広がる無力感。なんくりの主人公、由利は、それでも自分らしく歩いていこうと心に決める。